

令和3年度「特色ある学校づくり対策事業」実践事例

テーマ: 地域とふれあい、 豊かな心を育てよう

佐世保市立福石中学校
佐世保市干尽町2番10号
校長 福野 生人
生徒数 233名
学級数 10 (内特支3)

今年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を見極めながら教育活動をしなければならなかった。その中で、本年度もテーマを「地域とふれあい、豊かな心を育てよう」とし、ウイズコロナの中でできることを模索し、地域に生きる生徒を育てようと努めた。

1 郷土人材活用による郷土学習の推進・深化

本校で長年の伝統となっているカルチャーズデイは、昨年度同様感染症の影響で実施することができなかった。だが、今後のことを展望し、講師の方に事情説明とお詫びの手紙を出し、人脈が切れないようにした。そして、郷土についての理解と関心を深め、次年度以降発展させていけるよう、総合的な学習の時間に地域探求の活動内容を加えた。スマートスクール SASEBO 構想による一人一台端末の配布により、個別最適な課題を深く掘り下げ研究することができた。

2 郷土人材招聘による情操の涵養

生徒が地域に出て行く活動ははばかられたが、感染拡大状況が緩和する時期に積極的に学校を開いた。ウイズコロナの生活様式の中、生徒たちは閉塞感を抱きがちであったが、地域から様々な人材を招き、触れ合いの中で学習することができた。

薬物乱用防止教室は、10月21日に延期し実施した。学校薬剤師の先生が、3年生に対し講話を行った。外部講師の専門的な話から、生徒たちは薬物乱用の恐ろしさを強く実感した様子であった。





2年生は、職場体験学習の代わりに事業所から講師を招き、職業講話を行った。仕事について、様々な業界で働いている方から直に話を聞き、問答することで、自分自身のキャリアについて深く考えるきっかけとなった。

生と性の講演会も、延期した上で11月26日に行うことができた。長崎市から講師を招き、1・2年生が話を聞いたが、非常に心を揺さぶられる内容と語り口で、生徒たちは大いに感銘を受けていた。

3 心の教育の促進

ウイズコロナの生活様式では、生徒の心情のあり方が心配されるところであった。そこで、生徒の心情面を盛り上げ、情操を豊かにするような工夫を心がけた。

部活動は、制約の多い中、練習や大会の突然の中止を心配しながら断続的に続けられた。それでも生徒たちは精いっぱい頑張りを見せ、成果をあげた。それを称える中体会の成績を記した横断幕を作り、地域に披露できる場所に設置した。



スポーツ面だけではなく、文化面での頑張りも目覚ましかった。そこで、生徒の優れた美術作品を飾る額を新調し、本棟1階廊下全面に掲示をした。通行の多い場所なので、環境を整えることで心を整えることができた。

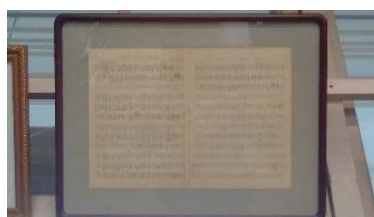
また、県・市教育委員会の補助のお陰で、人権学習のための映画上映会をすることができた。「青い鳥」という作品は、学校生活での人間関係について考えさせ、自分を振り返らせる優れた内容の映画であった。本校体育館に本格的な上映設備を整えたため、一層の効果があった。

4 生徒の自律の促進

学力向上のため、五教科の問題データサービスを購入した。基礎基本を鍛えるための問題を手軽にカスタマイズすることができ、働き方改革を進めつつ、個別最適な学習を推進することができた。

また、11月に本校独自で2回目の「心の状況調査」を行った。結果の分析を生徒に投げかけることで、生徒が自分たちで課題を解決しようとする姿勢を育てた。

さらに、本校の歴史に誇りを持ち、よりよい校風の樹立を意識させるため、掲示物の修復も行った。本校卒業生である生徒の保護者から、校歌の原譜を預かったので、表装し掲示した。また、校是であるペスタロッチの言葉「ひとりの子をそまつにする時、教育はそのひかりを失う」の書も表装し直した。



コロナ禍で、何事も当初の予定や例年通りには行かず、全ての行事や活動は調整や変更の連続であった。その中で生徒たちは思うようにいかないもどかしさを味わい、窮屈な思いをしていたことと思われる。だが、本事業のお陰で外部講師を潤沢に呼ぶことができたし、校内外の環境を整備することで情操を涵養することができた。その結果、生徒たちは活気あふれる学校

活を送ることができた。

